

令和4年度 第1回 新見市地域公共交通会議議事録

と き 令和4年4月28日(木)

15:00~16:30

ところ 新見市役所第1委員会室

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員12名中11名(委任状による出席2名を含む)

地域公共交通会議について説明

2. 委員紹介

3. 役員選出

会長、副会長の選出

【承認】

4. 会長挨拶

(会長)

以前の任期から務めており、引き続きよろしくお願ひ申し上げる。今年度は新見市の新しい公共交通計画を策定するという大きな変化が予定されている。今後は鉄道も含め、様々な変化があるのではないかと感じている。大きな変化がある中で計画策定を行う重要な時期に会長を務めるということで、副会長共々この会議を充実したものにして良い計画を策定したいと思う。皆様にはご協力をお願いしたい。

5. 報告事項

1) 令和3年度新見市地域公共交通事業報告について

- ・ 事務局から資料1~2を説明、報告

(委員)

延べ運行日数について、備北バスは365日で毎日運行していたとわかるが、市営バスは723日や964日となっており、どう解釈すれば良いか。

(事務局)

市営バスは1路線が250日程度運行しており、それが3~4路線あるため、合わせた日数を延べ運行日数としている。

(委員)

延べ運行日数は市営バス各路線の運行日数を合計したものということか。

(事務局)

そのとおりである。

(会長)

大きな数字が出ているといった印象を受けた。利用者1人あたりの補填額が出ているが、市民1人あたりの負担額はどのくらいになるのか。手元に資料がなければ次回の協議会で報告をお願いしたい。市民1人あたりの負担額は基本的に必要な数値であるため、資料の中にも常に入れていただきたい。利用者が市民のうち少ない割合だとすると、利用者1人あたりより、市民1人あたりの負担額が非常に大事な要素になってくる。

2) 令和3年度新見市予約型乗合タクシー実証運行の実績について

- ・ (株)バイタルリードから資料3を説明、報告

(会長) 昨年度の後半あたりから意欲的に取り組んできた事業である。実証運行と言っても実際は2路線を運行している。千屋地域については、アンケート調査もあり非常に分かりやすい結果となっている。新見市中心市街地へ乗り継ぎなしで移動できるようにしようという目的であったと思うが、アンケート調査結果を見てもそれなりに効果はあったと思われる。ただし無料で実施した上での結果である。一方、哲西地域は利用登録者数のみで表現されており、そもそもの運行目的は何だったのか、その目的は達成しているのか、または達成していないのかが不明である。こちらは恐らくアンケート調査を実施していないため統計的には説明できないと思うが、利用者や事業者の声で分かることがあれば教えていただきたい。せっかく実証実験をしても目的や達成状況がわからなければ意味がない。

(事務局) 哲西地域での実証運行の目的は、JR芸備線の利用促進が目的であった。こちらはアンケート調査を実施していないため、どのくらいJRの利用に繋がったかは把握できていない。目的とは違うかもしれないが、先程報告した公共交通利用実績の中で、哲西地域で以前運行していたふれあいバスの利用者数よりふれあいタクシーの利用者数の方が多いという点は見て取れた。これをどのようにJRの利用に繋げていくかは今年度も運行を継続していく中で実態を把握し、改善できるところは改善していきたい。

(会長) 鉄道との乗り継ぎや鉄道の利用促進を主旨として実施したことは理解した。利用実績だけではなく、鉄道駅周辺での乗降者数を把握し、さらにそこからJRを利用したかどうかまで把握できると良い。少なくとも鉄道駅周辺で乗降したかは把握しておいてほしい。また、利用者や運行事業者の運転手の声を聞いていただければ良いと思う。今年度も継続するとのことなので、その辺りを特に注視してほしい。

(委員) 哲西地域は県境のため、鉄道を利用して庄原市や東城町の方へ行く人が多いということを踏まえて鉄道の利用促進という目的になったのか。東城町には医療機関も多く、恐らく哲西地域から鉄道で行く方が多いと思う。そういった医療機関に行くことを目的に予約型乗合タクシーを利用している人がいるか把握されているのか。

(事務局) 哲西地域の予約型乗合タクシーについては、移動区域や目的地が哲西管内に限られている。そのため、JRや備北バスに乗り継いで新見市中心部や東城町へ移動していただきたいという思いが目的の一つではあった。しかし、予約型乗合タクシーを降車した後の動きまでは調査できていない。

(会長) 地元の方の視点や意見は非常に重要であり、生活圏が県境であれば県をまたぐ移動はあり得る。現在までの計画では、鉄道に乗って移動してほしいという意図で作ってきた。今回の計画では運行形態も変更し、バスや乗合タクシーなどの公共交通機関の利用者数が増えたという結果が出ている。

今までより本来の移動目的地へ移動できている人が増えている可能性がある。ただ、その検証していないのは非常にもったいない。ぜひとも今後検証していただきたい。委員の皆様も地域の方からの声を聞いていただけたら大変嬉しく思う。

3) 第4回芸備線庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議について

・事務局から報告

(会長) 我々新見市地域公共交通会議が直接的に関わっている内容としては、先程報告があった哲西地域での乗合タクシーについてだと思う。検討会議で哲西地域の乗合タクシーを利用促進への取組として位置付けて報告するのであれば、どれくらい利用促進に貢献したのかという資料が当然必要になる。それはこの5月の検討会議までにデータを取ることができるのか。過去に遡ってデータがあればなんとかなると思うがいかがか。新見市が利用促進に貢献しているという資料を提出できるのか不安に思う。せっかく実証実験をしてもデータを取っていなければ資料として提出することは難しいため、これからデータ分析を行うなどの予定はあるのか。

(事務局) 現在5月に開催予定の第4回検討会議に向けて資料作成をしており、その中で2次交通の改善として哲西地域の予約型乗合タクシーと市営バスの増便について見直し前と見直し後の数字がわかるよう記載している。また、ソフト事業として駅カード500枚配布して1か月足らずで完売したことや、フォトコンテストを開催して202点の応募のうち入賞作品15点を新見駅で展示していること、庄原市で開催された「県境鉄道サミット」の参加者約400人のうち100人程度がJRを利用して参加されたといった実績を取りまとめた資料の提出を考えている。

(会長) 我々の取組も含め、できるだけデータを集めて提出していただきたい。

6. 協 議

1) ふれあいバス「菅生線」の停留所の新設について

- ・事務局より資料4~6を説明、資料内の「JA大佐支店」は誤りであり「農協大佐支所」が正しい表記であることを加えて説明

(会長) 新設される停留所がある地元の方にお聞きしたい。地元の住民が行きそうな場所への移動はこの新設によってカバーできると思って良いか。または他にこういった場所に人が集まる店舗ができた、ここは誰も利用しないといったことがあれば教えていただきたい。

(委員) 今回新設される「農協大佐支所」は、以前からそこで乗れないかという声があったが、今までは路線外であった。

(会長) 以前から「農協大佐支所」に行きたいというニーズがあり、それをカバーしたということで理解した。他にはなかったか。

(委員) 他は特にない。

- (会長) 気になったことがもう1点ある。資料4で1~4は「フリー乗降とする」という記載がある。フリー乗降とは乗降したい場所で乗降できることだが、その区間の安全性の確保については確認が必要だと思う。事務局で警察との事前調整はされているのか。
- (委員) 少し前に警察と市職員でこのルートについて協議している。実際に私も現場へ行って走行し、安全性を確認した。道路の幅員が狭い箇所もあったが、既設路線のルートでも同程度の幅員の箇所はあった。現時点で問題がなければ個人的には大丈夫であろうと判断した。交通量の観点からも問題ないと思われる。
- (会長) 承知した。そうであれば安心して進めることができる。
- (副会長) 資料6について、1便目が菅生市民センター9時10分発、農協大佐支所10時57分着となっている。恐らく9時57分着の間違いではないかと思うがいかがか。確認をお願いしたい。
- (事務局) ご指摘のとおり9時57分着が正しいため修正する。

【協議事項承認】

2) 新見市予約型乗合タクシー「哲西乗合タクシー」の運行時間の変更について

- ・ 事務局から資料7を説明

- (会長) 運行時間の幅を少し広げるということで利用者の利便性は向上すると思うが、運行事業者や事務局のコストが増えるのではないか。
- (事務局) 運行事業者と協議し、30分程度の前倒しであれば現在契約している運行経費内で運行可能ということで了承をいただいている。そのため経費としては現状のままとなる。

【協議事項承認】

7. その他

- (専門員) 既にご存知と思われるが、本年4月23日に知床半島で遊覧船が浸水し救助を要請するという重大な事案が発生した。その関係により、旅客船事業者等の船の運航事業者には緊急点検をするよう運輸局から事務連絡を行っている。旅客輸送という点では海上に限らず陸上においても同様であるため、バスやタクシー運行事業者へも安全確保の徹底について文書を出している。これからのゴールデンウィークや夏の多客期にあたり、改めて適切な運行管理や車両の点検整備の確実な実施など、事故防止を徹底していただきたい。地域公共交通会議といった場では利便性に関する議題を優先されることが多いが、根底には安全第一がある。その部分に留意して引き続き議論していただきたい。日々、運行事業者は事故防止のためコストをかけて様々な事を行っているため、利用者の皆様にはご承知おきいただきたい

い。

- (委員) 又聞きの話のため具体的な内容が不透明で恐縮だが、大学の新学期が4月から始まったことで利用者数が増えていることが関係するかもしれないが、鉄道を利用して駅に来た学生が大学へ行くバスに乗車できないという話がある。時間の問題なのか乗車定員の問題なのかは不明のため、詳細は大学へ直接問合せさせていただきたい。
- (会長) 4月は新学期を迎えて新たな人の動きが発生する時期である。事務局ではそういった話を把握しているか。
- (事務局) そういった話があるということは聞いており、大学の新学期が始まった4月初めに駅周辺で調査を実施した。我々が見たものがすべてという訳ではないと思うが、晴れの日の調査では積み残しは発生していなかった。初めて雨が降った日は、駅周辺に学生用の大きなアパートができたこともあり、市街地循環バス「ら・くるっと」で約40名程度の積み残しが発生した。乗車できなかった方はタクシーや、大学までは行かないが渡辺病院まで行くことのできる備北バスの路線バスを利用して移動されたことを確認した。
- (委員) 補足になるが、新学期に初めて雨が降った日は市街地循環バス「ら・くるっと」に乗車できなかった人が60人程度いた。立つスペースもあるが、座席数は23席しかない。限界まで乗り込んでいただいても約50人しか乗車できない。それでも積み残したのが約60人程度である。そのうちタクシーを利用した人は数人で、備北バスの路線バスにも乗車できなかった人がいた。しかし、積み残しは雨の日のみ発生しており、晴れの日には市街地循環バス「ら・くるっと」ですら余る状態で運行している。大学の方も現状を見に来られ、学生にも意見を聞いた。実際のところ晴れの日に利用する人はおらず、雨の日には殺到するのが現状だということである。
- (会長) どの地域もそうだが、晴れの日には徒歩や自転車で通学する人が雨の日のみバスを利用するケースは多い。公共交通のように定期的に運行するものは、雨の日の利用に合わせて運行すると無駄なコストが増えるだけになる。どのあたりでバランスを取るのかは難しいところである。大学も年間を通じて見るとゴールデンウィーク前に多くの学生が遊びに来るが、次第に減少していく傾向にある。4月の雨の日のみ特別便を運行する余裕があるのか、または学生へ雨の日は登校時間を早めるなどの啓発をするのか、大学側と協議して検討する必要があると思う。
- (事務局) 我々も現地調査をして状況を把握したが、雨の日のみの増便は現実的ではない。この場で決めることはできないが、大学で大きなバスを1台所有されているため、それを活用できないか大学側と検討していきたいと考えている。
- (委員) 千屋地域の予約型乗合タクシーの試験運行を実際に行ってみて、現在無料のところを今後は有料で行う方針なのか。または試験運行で終了する考え

なのか。アンケート調査で様々な意見があったと思う。利用者としては運賃が安いに越したことはないが、バスよりタクシーの方が安いのもどうかと思う。そのあたりはどのようにお考えなのか。

(事務局) 千屋地域の予約型乗合タクシーについて、令和3年度は高齢者の動向やどのくらい需要があるかを把握するために無料で実施した。令和4年2月で一旦終了しているが、今後は無料ではなく公共交通の一つとしてどのような形が良いかを模索しながら、新たに実証運行ができるよう今年度中に検討していきたい。計画ができた段階でこの新見市地域公共交通会議で諮らせていただきたい。

(会長) 千屋地域は一旦終了しているということか。

(事務局) 千屋地域は一旦終了し、哲西地域は現在も継続中である。

(委員) 哲西地域の予約型乗合タクシーの委託料は車両2台分の金額なのか。

(事務局) そのとおりである。

(会長) 様々な意見を伺いながら今後も検討していただきたい。他にも何かあれば事務局の方へ気軽に意見を上げてほしい。

8. 閉 会

(事務局) 閉会にあたり、後藤副会長からご挨拶をお願いしたい。

(副会長) 本日は2年の任期の初めての会議ということで、慎重にご協議いただき感謝申し上げます。本年度は新しい新見市地域公共交通計画の策定が行われるため、会議回数も増えると伺っている。委員の皆様や専門員の皆様には引き続きご協力の程よろしくお願い申し上げます。

以上